

親鸞さまの

【本文】

ぶっちふしぎ
仏智不思議を信ずれば

しょうじょうじゅ
正定 聚にこそ住しけれ

けしょう
化生のひとは智慧すぐれ

むじょうかく
無上覚をぞさとりける

【意訳】

阿弥陀様のお智慧は不思議つま
り人が言葉や心で捉えきれない深さ
と広さがあります。そのお智慧によ
つて私達をお救いになると聞いていく
内に、そのお救いを信じる心信心
を得ます。

その信心を得た人は 極楽行きが
定まった人々の一員になります。

極楽往生する人は、同じく智慧がす
ぐれた存在になります。

何故なら 阿弥陀様のお陰で仏様に
成ることができるからです。

【私の味わい】

しばしば人の口の端に上る言葉として、神も仏もあるものかという言い方がありま
す。それほど、落胆し絶望したという心情の表現なのでしょうが、その言葉の裏には
仏様についての先入観、強い思い込みがあるように感じます。

仏様は、人間の行いを見て良き者に幸を授け、悪しき者には不幸を与えて苦しめ
るしかし、現実はどうだ。自分の想像通りになっていない、何故か。それは、結局仏様
が存在しないからだ。そもそも自分の想像自体が間違っていることに思い至らざら
ず。

お釈迦様を始めとして仏様とは、人間の苦しみの原因を見抜いて、煩惱の悪循環か
ら抜け出すことに成功したお方のことを言います。そして、その迷いから抜け出でた悟
りの眼、智慧から人々に憐れみ慈しみを垂れ、慈悲たもうのです。そのお立場には
人の煩惱に油を注ぐための幸運を与えたり、はたまた作為的に不幸を与えるなどのお
話は全くもって登場しません。善悪老若、全ての人を平等の眼でご覧になっています。

このような仏様のイメージは、そもそもが誤解であるとともに人の側のおごりがあ
るのではないでしょうか。よく知らずに否定するという姿勢、きとこういうものだと
いう自己判断の根拠なき自信、この両方がその言ひ方に現れています。加えて、自分が
誤解した存在を否定する、という二重の誤りにも陥っています。

仏様のことは人間が簡単に知り得るものではない、不思議なのです。（悠本）